

第5学年 社会科学習指導案

日 時 令和3年2月4日(木)
 (6校時 14:25~15:10)
 対 象 5年1組 35名
 授業者 小金井市立小金井第一小学校 笠原 駿

1 小単元名 「環境を守るわたしたち」(9時間)

2 小単元の目標

公害の防止と生活環境について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べて関連図にまとめ、その働きを多角的に考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、国民の一人として国土の環境保全について自分たちができるところを考えようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取組を理解している。 ② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。	① 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見出し、国土の環境について考え、表現している。 ② 公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを多角的に考えたり、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちができるところを考えたり選択・判断したりして、表現している。	① 公害防止の取組について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に、国土の環境を保全するために自分たちができるところを考えようとしている。

4 研究内容との関連

(1) 教材について

日本の国土における公害の発生時期や経過などを調べ、概観的な学習を行った後に、具体的な事例を通して環境を保全する取組について調べる。中心の事例としては、東京湾を取り上げる。「東京湾の海水浴場復活(湾の東京都側)」を教材として取り上げることで、東京都で生活する児童に、「生活排水によって汚れてしまった海が、どうやって海水浴ができるまできれいになったのか。」などの疑問や驚きをもたせることができる。

公害を防止する取組には、行政・企業・市民が協力して取り組んでいくことが大切であることを、相互関係的な視点にも着目して捉えさせるとともに、環境改善や人々の健康な生活における課題に気づき、児童が国民の一人として、どのように公害防止や人々の健康な生活に向き合うとよいか、考えることができるようにする。

また、70年前に製品化されたプラスチックが、現在、海洋プラスチックとして海に残る現状がある。関わり方を考える「いかす」段階において、社会に見られる新しい課題を把握する教材として活用することで、現代社会の問題の解決に向け、できると考える。

(2) 研究内容との関連

①主体的に追究する問いの研究 「子供が自ら学習状況を把握しながら「問い」を追究するための工夫」

【学習状況を把握しながら学習を進めるための学習展開の工夫】

学習計画を立てた際に、問いだけでなく、調べる方法、手段についても児童と共に決めていく。これまでの積み重ねを生かして、調べたことを表現するツールや調べる資料の見通しを、児童一人一人が立てておくようにする。実際に「調べる」段階では、毎時間の学習展開を見通す、調べる、交流する、振り返る、という流れにし、児童が自らの学習状況を把握しながら進められるようにする。

②見方・考え方を働かせる学習活動の工夫 「図や表などにまとめて整理する活動」

「つかむ」段階で、公害の発生時期や経過、広がりに着目できるよう、年表資料から地図作りを通して、国土で発生した公害の様子を理解できるようにする。「まとめる段階」では、調べたことを整理し、「公害防止に関わる人々の協力や努力」についての関連図をグループごとに作成し、話し合い、学習問題に対する考えを書くようにする。さらに、「いかす」段階では、海洋プラスチックの問題への取組に対して、四象限マトリクス図を用いた話し合い活動を行い、「自分ができること」を選択・判断しながら意見交換する学習活動を設定する。

③子供の学びを確かにする評価の工夫「学習に見通しをもつためのふりかえりの工夫」

毎時間の振り返りについては、「ふりかえりの問い」をカードにして活用していく。その際には、感想ではなく、次の自分の学びにつながるように振り返ることができるよう指導していく。全ての問いについて毎時間振り返るのではなく、毎時間の学習活動や評価に合わせて、教師と児童で選択しながら振り返りを行う。このことにより、次の時間の見通しをもつことができたり、自分の考えを整理することができたりする。

5 教材の構造と問いの構成

本小単元「環境を守るわたしたち」で働かせたい社会的事象の見方・考え方(視点や方法)に即して教材を分析し、以下のように「教材構造図」に整理した。

学習指導要領 第5学年内容(5)

ア(ウ)関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。
 ア(エ)地図帳や各種資料で調べ、まとめること。
 イ(ウ)公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。
 (内容の取扱い)
 イ アの(ウ)及びイの(ウ)については、大気汚染、水質汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。
 ウ イの(イ)及び(ウ)については、国土の環境保全について、自分たちができることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。

<教材構造図>

過程	概念や知識		資料
つかむ	<p>事象相互を関連付けて国民生活と関連付けて</p> <p>様々な立場の人の取組を相互に関連付けて関連図にまとめる学習活動</p>	<p>㊦1960年ごろから、工業の盛んだった地域では、工場の排水や排気により水質汚濁や大気汚染が発生し、人々の健康に大きな被害が発生した。国が法律をつくって、工場が汚水を流すのを止め、環境が回復した。</p> <p>㊧東京湾では、50年ほど前に、工場の排水や生活排水が原因で公害が発生した。その後、国や東京都、工場や企業、市民団体などが東京湾をきれいにする取り組みを続けてきたことで、東京湾は、海水浴ができるまでに水質が改善しつつある。</p>	<p>高度経済成長の時期には、生活の豊かさを目指して工業が発達する一方、日本各地で公害が発生した。</p> <p>東京湾では、埋め立て地の工場排水や家庭からの生活排水により、水質汚濁が進んだが、現在は改善されつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の公害発生の分布図 ・環境局の方の話 ・東京都の公害 ・昭和の東京湾の写真 ・公害被害と原因 ・東京湾の海水浴場
しらべる		<p>国は、法整備を行い、東京都は海の水質管理をしたり、下水処理場を設置して、海に流れる河川の水質改善をしたりしてきた。</p> <p>企業は、基準を守って工場排水や汚染物質の排水を防ぐ取組や、環境にやさしい製品開発をしてきた。</p> <p>市民団体は、東京湾の水質改善をするために、海や川をきれいにしたり、署名活動をしたりして、環境保全のための取組をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁防止法 ・下水道の整備 ・環境局の話 ・排水処理 ・環境にやさしい洗剤 ・ふるさと東京を考える会の活動 ・署名運動などの普及活動
まとめる	<p>㊨長い時間をかけて、関係機関や地域の人々の様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきた。国土の環境保全の取組は、国民の健康な生活を守ることにつながっている。</p>		
いかす	<p>学んだことを活用して</p>	<p>㊩環境保全には様々な課題があり、公害防止のための継続的な取組や、様々な立場の人々の協力が大切である。</p> <p>海洋プラスチックは、人間が生活の中から生み出し、プラスチックごみが、世界的な規模で生き物や海の環境に被害を与えている。</p> <p>行政、企業、市民団体は、それぞれの立場で取組を行っているが、自分たちにもできることがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋プラスチックの被害 ・生活の中のプラスチック ・国の取組 ・企業の取組 ・市民団体の取組

本小単元「環境を守るわたしたち」で働かせたい社会的事象の見方・考え方(視点や方法)を意識して、児童が追究する「問い」の構成と児童の学びの流れを教材構成図と関連させ、以下の「問いの構成図」に整理した。

学習指導要領 第5学年目標 (学びに向かう力・人間性)

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

<問いの構成図>

見方・考え方	本小単元における「問い」の構成例(0次案)	期待される子供の学びの姿
公害の発生時期や経過	<p>単元前：日本は自然豊かな環境があるが、森林が荒れ、様々な人が協力しても保全はなかなか進んでいない。</p> <p>問い：日本ではどのような公害が起こっていたのだろう。 ・いつ頃起こったのか？ ・どこで起こったのか？ ・何が原因か？ ・どう解決したのか？</p> <p>問い：東京都ではどのような公害が起こっていたのだろう。 ・昔はどうだったのか？なぜ起こったのか？ ・今はどうなっているのか？</p> <p>学習問題：東京湾の水をきれいにするために、誰がどのようなことをしたのだろう。</p>	<p>日本は高度経済成長とともに、公害の被害が多かった。東京湾でも公害はあった。しかし、今は海水浴ができるまできれいになった。</p> <p>きっと、環境を守るために協力している人がいると思う。</p>
公害防止の取組	<p>問い：国や東京都は何をしてきたのだろう。 ・どのような仕組みや工夫をしたのだろうか？ ・苦勞することや困っていることは何か？</p> <p>問い：企業は、何をしてきたのだろう。 ・企業はどんな工夫をしているのだろうか？ ・なぜ企業の協力が必要なのだろうか？</p> <p>問い：市民団体は、何をしてきたのだろう。 ・どのような市民団体があり、何をしているか？ ・どんな課題があるのだろうか？</p>	<p>東京湾の汚れは生活排水が大きな原因だと知ったので、市民が努力をしていると思う。まずは、市民団体について調べていこうと思う。</p>
国や都企業や市民の協力関係	<p>下水道の役割はすごい。工場が多いことで、川や海が汚れるし、家の水も使うので、ここまで汚れてしまうので、使い方に気をつける必要がある。</p> <p>企業の人も、環境を良くするために取り組んでいる。</p> <p>市民の人々の取り組みは、人がたくさん来てくれるように工夫をしていた。</p>	<p>企業の人々も、環境を良くするために取り組んでいる。</p> <p>市民の人々の取り組みは、人がたくさん来てくれるように工夫をしていた。</p>
事象を関連付ける生活と関連付ける	<p>問い：それぞれはどうつながっているのだろう。</p> <p>日本は高度経済成長とともに公害が増え、東京湾においても、工場や家庭の排水により水質汚濁が進んだ。現在は、行政、企業、市民団体などの様々な人々の協力によって、排水の設備を整備し、水質を維持・改善する工夫が行われ、わたしたちの国土の環境を守り、健康な生活を送ることができるようになってきた。</p>	<p>企業の人々も、環境を良くするために取り組んでいる。</p> <p>市民の人々の取り組みは、人がたくさん来てくれるように工夫をしていた。</p>
持続可能性	<p>問い：海洋プラスチックは、海にどんな被害を与えるのだろう。 ・海洋プラスチックはどんな被害を起しているのか？ ・原因は何か？ ・どう解決しようとしているか？</p> <p>問い：これから、私たちはどのようにかわっていけばいいのだろう。</p> <p>経済や豊かさを最優先でものをづくり、生活してきた結果として公害が起きたから、この海洋プラスチック問題も、便利だけを求めていると、将来取り戻すことができないくらい困ったことが起きると思う。世界中のみんなであれば、効果は大きいと思うから、私は、〇〇を続けて取り組んでいきたいと思う。</p>	<p>これだけ様々な人が協力しても、環境の保全は進まない。もっと豊かな自然を守るために、私達にもできることがある。</p>

6 小単元の指導計画（全9時間）

過程	ねらい (数字は時数)	主な学習活動 (○) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 □指導上の留意点 【評価】 (★見方・考え方を働かす)
つかむ	<p>環境汚染に伴う健康被害や全国に広がる環境問題を調べ、公害発生の原因と公害防止の取組を理解している。①</p>	<p>○大気汚染と水質汚濁の写真から、「公害」の言葉の意味を捉える。 ◆日本では、どのような公害が起こっていたのだろう。 ○公害分布図を完成させ、どのような公害が広がっていたのかを調べる。 ・高度経済成長の時期に公害が多く起こっている。 ○環境局の方の話から、公害が起きる原因を調べる。 ○東京都の公害について、東京都の公害年表から調べる。 ○本時の振り返りをする。 ○高度経済成長期の日本は、経済を優先して環境や健康に被害を与えた。公害は日本全国に広がり、水質汚濁など、人々の生活に影響が出た。東京都でも裁判になるなど大きな被害が出た。同じように経済的な理由なのか知りたい。</p>	<p>◎写真：高度経済成長期の工場の様子と河川の様子。 ◎地図：日本の公害分布図 ◎表：公害一覧 ★公害の分布図から、公害が全国に広がっていたことに着目できるようにする。 ◎文書：環境局の方の話 【知技①】ノートなどの記述から「地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、公害発生の原因と公害防止の取組を理解しているか。」を評価する。</p>
	<p>東京湾における水質環境の変化を捉え、東京都の環境改善について学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。②</p>	<p>○前時の振り返りから、本時のめあてを確認する。 ◆東京都ではどのような公害が起こっていたのだろう。 ○東京湾について調べる。 ○汚れた東京湾の写真を読み取る。 ○当時の公害について調べる。 ○東京湾の3つの時代の写真の変化から、学習問題をつくる。 学習問題：東京湾の水をきれいにするために、誰がどのようなことをしたのだろう。 ○予想を立て、調べることを学習計画として整理する。 ・新しい法律をつくった・法律を守って排水をきれいにした。・ボランティア活動を始めた。 <学習計画>①国や東京都の取組 ②工場など企業の取組 ③市民の取組 ○次時に調べることを考え、表現する。</p>	<p>◎写真：昭和の東京湾 ◎文書資料：東京湾の公害について ◎写真：現在の東京湾 ★時間と様子の変化から、学習問題を作るようにする。 【思・判・表①】ノートの記述から「発生時期や経過に着目して問いを見出しているか。」を評価する。 【態度①】ノートの記述から「予想や学習計画を立て、追究の見通しをもとうとしているか。」について評価する。 □3つの立場から初めに調べる立場を決め、その理由についても記述するようにする。</p>
	<p>東京湾における国や都による水質改善の取組を調べる。③④⑤</p>	<p>◆国や東京都は、何をしてきたのだろう。 ○資料を活用して、行政の取組について調べる。 ・河川にして水質汚濁防止法を定めた。 ・法律によって工場の排水がきれいになった。 ・下水道が整備され、汚れた水が流れにくくなった。 ・東京湾は、まだまだきれいとは言いきれない。 ○関係図に調べたことを書き、本時の振り返りを書く。 ○国が法律を定め、計画を策定し、予算化して事業を進めた。東京都は、下水道などのインフラ整備を進めた。</p>	<p>◎下水道整備 (写真、文書) ◎環境関連の法令 (年表) ★人々の協力関係に着目できるようにする。 【知・技①】ノートなどの記述から「国や都などの様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているか。」を評価する。</p>
	<p>東京湾における工場などの企業による水質改善の取組を調べる。③④⑤</p>	<p>◆工場などの企業は、何をしてきたのだろう。 ○企業の取組について調べる。 ・排水処理では、行政の基準を超えないように、環境にやさしいものづくりをしている。 ・洗剤など生活排水として流れるものは、環境にやさしい製品を開発して改善されてきた。 ・海洋プラスチックの問題が、これからの課題だ。 ○関係図に調べたことを書き、本時の振り返りを書く。 ○企業は行政の定める法律を守り、環境に配慮した製品を開発して、環境保全への対策を行っている。</p>	<p>◎工場の排水状況 ◎環境にやさしい製品 (写真) ★人々の協力関係に着目できるようにする。 【知・技①】ノートなどの記述から「企業などの様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているか。」を評価する。</p>

	<p>東京湾における市民による水質改善の取組を調べる。③④⑤</p>	<p>◆市民は、何をしてきたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと東京を考える会」の取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・カキを使った浄化作業や、東京都と共同で水質浄化実験をしていた。 ○「綾瀬川を愛する会」の取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動などで、東京湾に注ぐ川をきれいにする。 ○関係図に調べたことを書き、本時の振り返りを書く。 <p>④市民団体が水をきれいにする活動や、東京湾の海に親しむ活動が進められており、わたしたちの生活をより豊かにしてくれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「ふるさと東京を考える会」の活動（写真、文章） ◎「綾瀬川を愛する会の活動」（写真、文章） ★学んだことを第2時の予想で用いた関係図に書き込み、人々の協力関係に着目できるようにする。 <p>【知・技①】ノートの記事から「市民の努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているか。」を評価する。</p>
<p>まとめる</p>	<p>これまで学習してきた東京湾の水質改善における取組を関連図に整理し、学習問題について自分の考えをまとめる。⑥</p>	<p>◆それぞれは、どうつながっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べてきたことを基に、関連図にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが水をきれいにするための取組をしていて、それが関連して水質が改善されてきている。 ○学習問題に対する自分の考えを書く。 <p>◎関係機関や地域の人々の様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきた。国土の環境保全の取組は、国民の健康な生活を守ることにつながっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎作成してきた関連図 □公害の防止に向けた取組や人々の協力を理解できるようにする。 <p>【知・技②】ノートなどの記述から「公害防止の取組と、環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを理解しているか。」を評価する。</p>
	<p>海洋プラスチックの被害や原因を調べ、自分たちの生活と関わっていることに気づき、新たな環境問題に対して関心をもつ。⑦</p>	<p>◆海洋プラスチックは、海にどんな被害を与えるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海洋プラスチックが引き起こす被害を調べる。 ○海洋プラスチックごみが発生する原因を調べる。 ○プラスチックと自分の生活とのつながりを考える。 ○本時の振り返りをする。 <p>⑤私は、海洋プラスチックの問題を解決するのは、正直難しいと思う。海の環境を守るためには、プラスチックを使わない方がいいけれど、便利な生活を送る私たちが、全てをやめることは難しいから。しかし、何もしないわけにはいかないから、公害の時のように、行政や企業も何かしているのではないかなと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎海の中や東京湾のイワシ（写真） ◎海洋プラスチックの被害（文章資料） ◎マイクロプラスチック（図） ◎「空飛ぶレジ袋」（動画） ◎生活の中のプラスチック（図） ◎海洋プラスチック量の予測（図） <p>【態度①】ノートの記事から「新しい環境問題に問題意識をもち、主体的に追究しようとしているか。」を評価する。</p>
<p>いかす</p>	<p>海洋プラスチック問題に対して、行政や企業、市民団体がやっている取組を調べ、公害防止の取組と解決方法を比べて考える。⑧</p>	<p>◆海洋プラスチックに対して、誰がどのような対策を取っているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政、企業、市民団体がやっている取組を調べ、図に整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・国は、国際社会と協力して減らす取組をしている。 ・東京都は、海ごみの回収・処理を継続的に行っている。 ・企業は、プラスチック製品を減らす努力をしている。 ○本時の振り返りをする。 <p>④公害の時と同じように行政や企業、市民が協力して、新しい課題を解決しようと取り組んでいる。自分たちには何ができるのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎国の海ごみ対策（文章資料） ◎各企業の取組（文章資料） ◎市民団体の取組（文章資料） ◎4象限マトリックス <p>【思・判・表②】ノートの記事から「公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを多角的に考え表現しているか。」を評価する。</p>
	<p>海洋プラスチック問題から、国土を保全するために自分たちが協力できることを考える。⑨ <本時></p>	<p>◆海洋プラスチック問題に対し、私たちはこれからどのようにかわればよいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決に向けて大切な要素を考え、話し合う。 ○学習したことを振り返り、意見文としてまとめる。 <p>⑤この海洋プラスチック問題も、便利さだけを求めていると、将来取り戻すことができなくなる。だから、世界中のみんなでやれば効果は大きいと思うので、みんなですべてのプラスチックを使わないようにすればいいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎これまでの資料 □ワールドカフェ方式を取り、4象限マトリックスを使って、考えを視覚化できるようにする。 <p>【態度②】「学習したことを基に、国土の環境を保全するために自分たちができることを考えようとしているか。」を評価する。</p>

本時の学習③（9/9時間）

(1) 本時のねらい

海洋プラスチック問題から、国土を保全するために自分たちが協力できることを考える。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	□留意点 ★見方・考え方を働かす手立て ◎資料 【評価】
導入	○問いの確認を行い、自分の意見を整理する。 本時の問い 海洋プラスチック問題に対し、私たちはこれからどのようにかかわればよいのだろう。	◎これまでの資料 □前時に考えた自分の意見を整理させる。
展開	○海洋プラスチック問題に対し、どのように関わっていけばよいか考えて話し合う。 ①4～5人グループを作成 ②ファシリテーター（進行役）を確認、話し合いを行う。 ③時間で区切り、主だった意見をグループごとに発表する。 ④ファシリテーターは残り、メンバーを替える。 ⑤残ったファシリテーターが意見を紹介して、話し合いを行う。 ⑥意見を発表する。 ⑦最初のグループに戻り、他のグループで出された意見を共有する。 ○海洋プラスチックの問題解決に向けて大切な要素を考える。 ・みんなでやること。 ・続けること。 ・行政や企業、市民が連携すること。	□4象限マトリクス図を使って、考えを視覚化し、整理しやすくする。 □これまでの資料や事実を基に話し合わせる。 □枠内①～⑦のようなワールドカフェ方式をとることで、多様な意見を活発に出させて相互に考えを深められるようにする。 □附箋は、必要に応じて使わせるようにする。 □黒板に整理するようにする。 □図を活用し、問題解決に向けて、どのようなことが大切かを考えさせる。 ★「みんなで」というのは、だれのことかを問い、日本だけではなく、世界中のみんなで取り組んでいかなければならないことに気付かせる。
終末	○これまでの学習で学んだことを振り返り、海洋プラスチック問題を解決するために、これからどうすればよいかを考え、意見文としてまとめる。 経済や豊かさを最優先でものをづくり、生活してきた結果公害が起きたから、この海洋プラスチック問題も、便利さを求めていると、将来取り戻すことができにくい困ったことが起きると思う。だから、世界中のみんなでやれば効果は大きいと思うので、私はみんなで不要なプラスチックを使わないようにすればいいと思う。	【態度②】 ノートの記述から「学習したことを基に、国土の環境を保全するために自分たちができることを考えようとしているか。」を評価する。 □抽象化して考えを述べている児童には、「例えば何をするのか。」と具体を問い、具体だけを述べている児童には、「その取り組みをどうして選んだのか。」などと問い、具体と抽象のどちらも考えられるようにする。

(3) 板書計画

海洋プラスチック問題に対し、私たちはこれからどのようにかかわればよいのだろう

効果 大

時間 かかる

すぐ

効果 小

(大切なこと)

◎どのようにかかわるのか。

